

揖斐川直轄河川改修事業

説明資料

平成26年7月4日

国土交通省 中部地方整備局
木曾川上流河川事務所
木曾川下流河川事務所

目 次

1. 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 主要洪水	2
3) 事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
1) 事業の必要性等に関する視点	
(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
(2) 事業の投資効果	5
(3) 事業の進捗状況	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針(原案)	7

1.事業の概要

1)流域の概要

揖斐川は、岐阜県揖斐郡揖斐川町から山間渓谷を流下して坂内川等の支川を合わせ、濃尾平野に入った後は、粕川や根尾川等の支川を合わせ大垣市の東側を南下し、さらに、牧田川、津屋川、多度川、肱江川等の支川を合わせた後、三重県桑名市で長良川と合流して伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長121km、流域面積1,840km²の一級河川です。

■流域及び河川の概要

- 流域面積 : 1,840km²
- 幹川流路延長 : 揖斐川 約121km (103.9km)
※():大臣管理区間延長
- 流域内市町村 : 6市7町 (大垣市、桑名市等)
- 流域内人口 : 約48万人
- 年平均降水量 : 約2,500~3,000mm以上 (山間部)
約2,000~2,500mm (平野部)

○主要洪水

発生年月	気象要因	被害状況
昭和34年8月	台風7号	揖斐川支川牧田川の根古地地先決壊、山崩れ35箇所 全壊家屋3戸、半壊家屋1戸、流出家屋28戸、浸水戸数8,400戸
昭和34年9月	台風15号	伊勢湾台風(台風15号)による高潮や洪水で、各地で甚大な被害発生 揖斐川支川牧田川の根古地地先で再び決壊 揖斐川流域浸水戸数15,000戸
昭和36年6月	前線	揖斐川流域浸水戸数:13,366戸
昭和36年9月	台風18号	第二室戸台風による被害 揖斐川流域浸水戸数:3,200戸
昭和50年8月	台風6号	揖斐川上流各地で山崩れ、土石流発生 被害家屋215戸
昭和51年9月	台風17号	揖斐川流域浸水戸数18,286戸
平成2年9月	台風19号	牧田川で背割堤が決壊 浸水戸数1,326戸
平成14年7月	台風6号	揖斐川の出水 浸水戸数738戸



2) 主要洪水

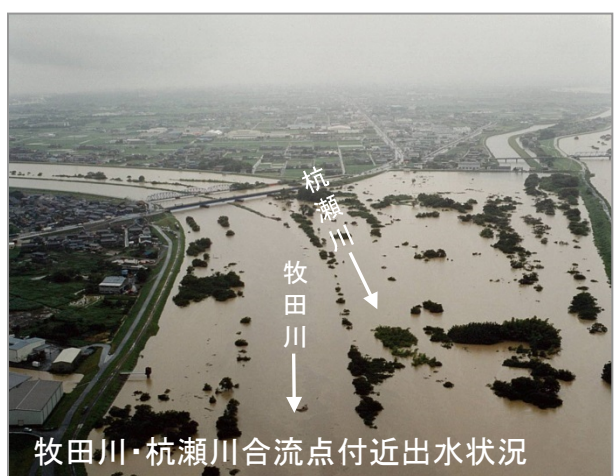
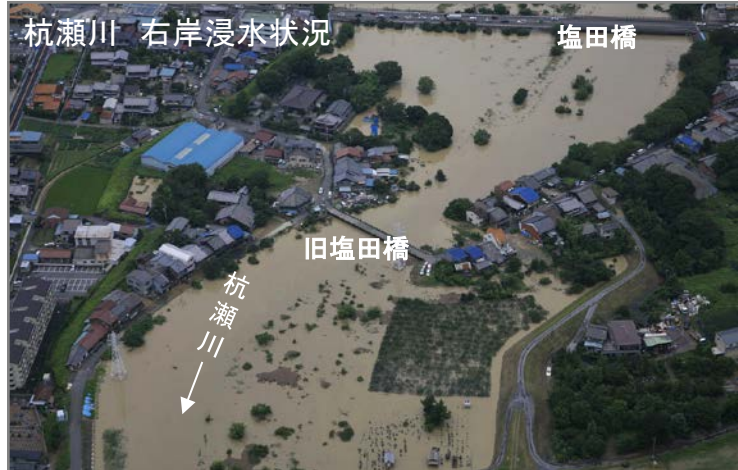
平成14年7月洪水では、牧田川、杭瀬川、相川、大谷川、泥川などの流域でも大規模な浸水が発生しました。特に、大垣市荒崎地区は、洗堰からの越流により、床上浸水家屋309戸、床下浸水家屋173戸の甚大な被害となりました。

平成20年9月洪水では、杭瀬川において床上浸水家屋5戸、床下浸水家屋26戸の被害が発生しました。
上記の被害軽減のため、支川の治水安全度を早期に高める必要があり、集中的に予算を投入し改修を実施しています。

■平成14年7月洪水による被害状況



■平成20年9月洪水による被害状況



3)事業の目的及び計画内容

平成20年3月に策定された「木曾川水系河川整備計画」において、河川整備基本方針の整備水準に向けて段階的に整備を進めることとし、揖斐川の大正管理区間における当面の整備目標は、概ね30年を目処に、基準地点の万石で戦後最大規模の洪水(昭和50年8月洪水、平成14年7月)と同規模の流量(3,900m³/s)を概ね安全に流下させることとしています。

■河川整備計画において目標とする流量と河道整備流量

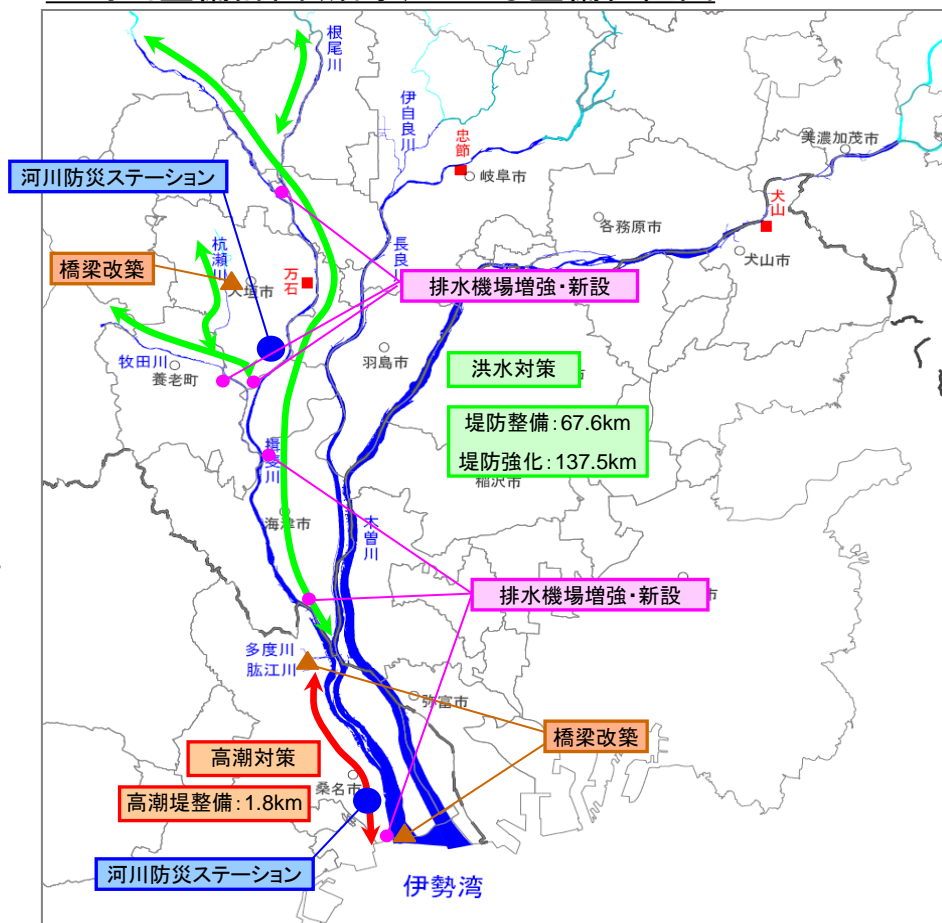
河川名	基準地点名	河川整備計画目標流量	洪水調節施設による洪水調節量	河道整備流量	備考
揖斐川※	万石	4,500m ³ /s	600m ³ /s	3,900m ³ /s	平成14年7月洪水対応(根尾川型)
		5,000m ³ /s	1,500m ³ /s	3,500m ³ /s	昭和50年8月洪水対応(本川型)

※揖斐川については、本川型及び根尾川型洪水型が発生しても安全に流下させることを目標にしている。

■河川整備計画(概ね30年間)での主な整備内容

整備項目	事業全体
堤防整備	67.6km
高潮堤整備	1.8km
堤防強化	137.5km
河川防災ステーション	2カ所
排水機場増強・新設	6カ所
河道掘削	1,887千m ³
橋梁改築	3橋

■河川整備計画(治水)の主な整備位置図



【洪水対策】

戦後最大規模の洪水を安全に流下させるため、堤防整備、排水機場の増強・新設等を行う。

【高潮対策】

堤防高が不足する区間の高潮堤防の整備を行う。

【危機管理対策】

整備途上段階での施設能力以上の洪水等に備え河川防災ステーション等を整備する。

2. 評価の視点

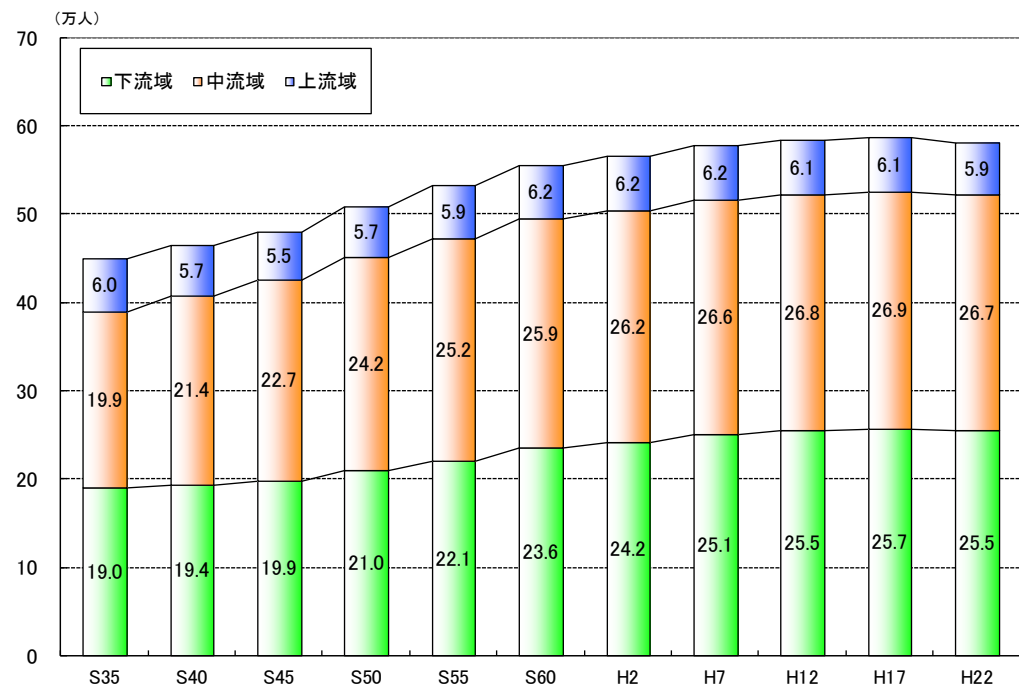
1) 事業の必要性に関する視点

(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

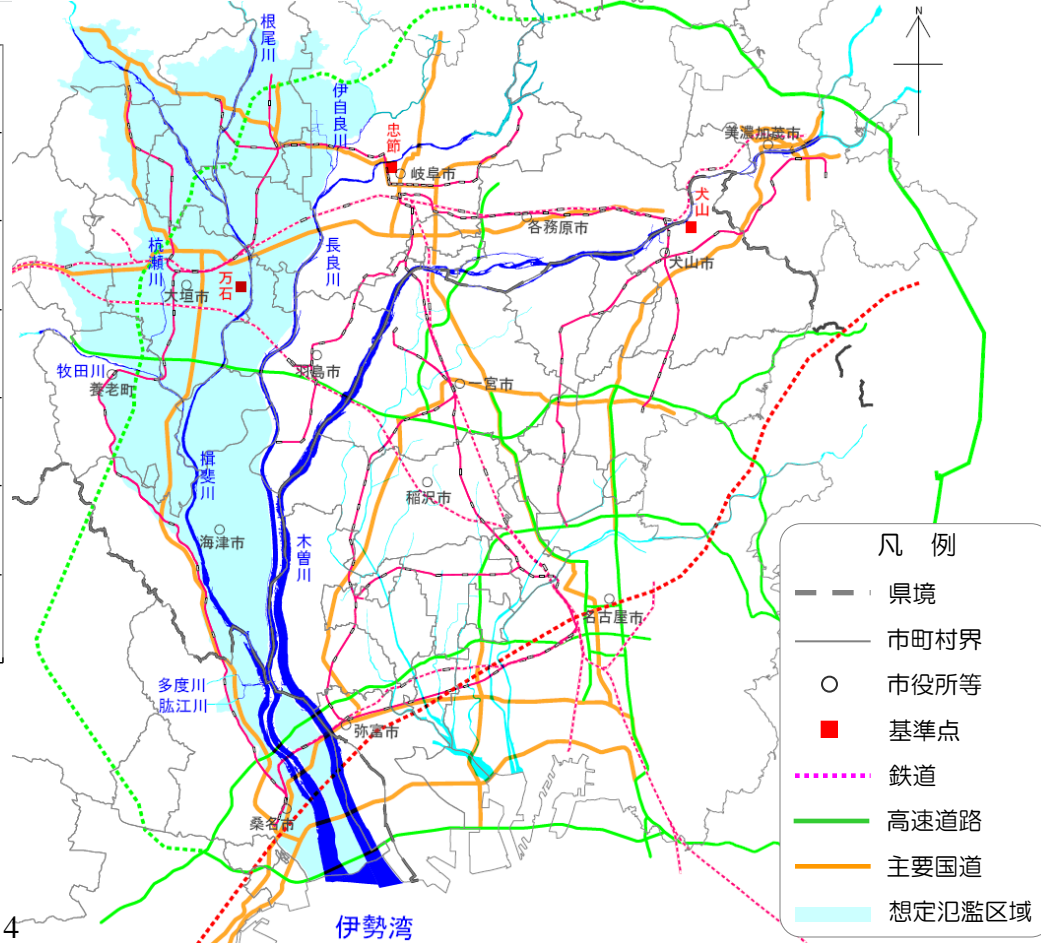
流域市町村の人口は、河川整備計画が策定された平成20年以降、概ね横ばいとなっています。

揖斐川流域は、高速道路及び主要国道、新幹線等の交通機関の拠点を抱え、国土の東西を結ぶ交通の要衝となっている。想定氾濫区域内には人口及び資産が集中しており、治水上極めて重要な地域となっています。

■ 流域市町村の人口の推移



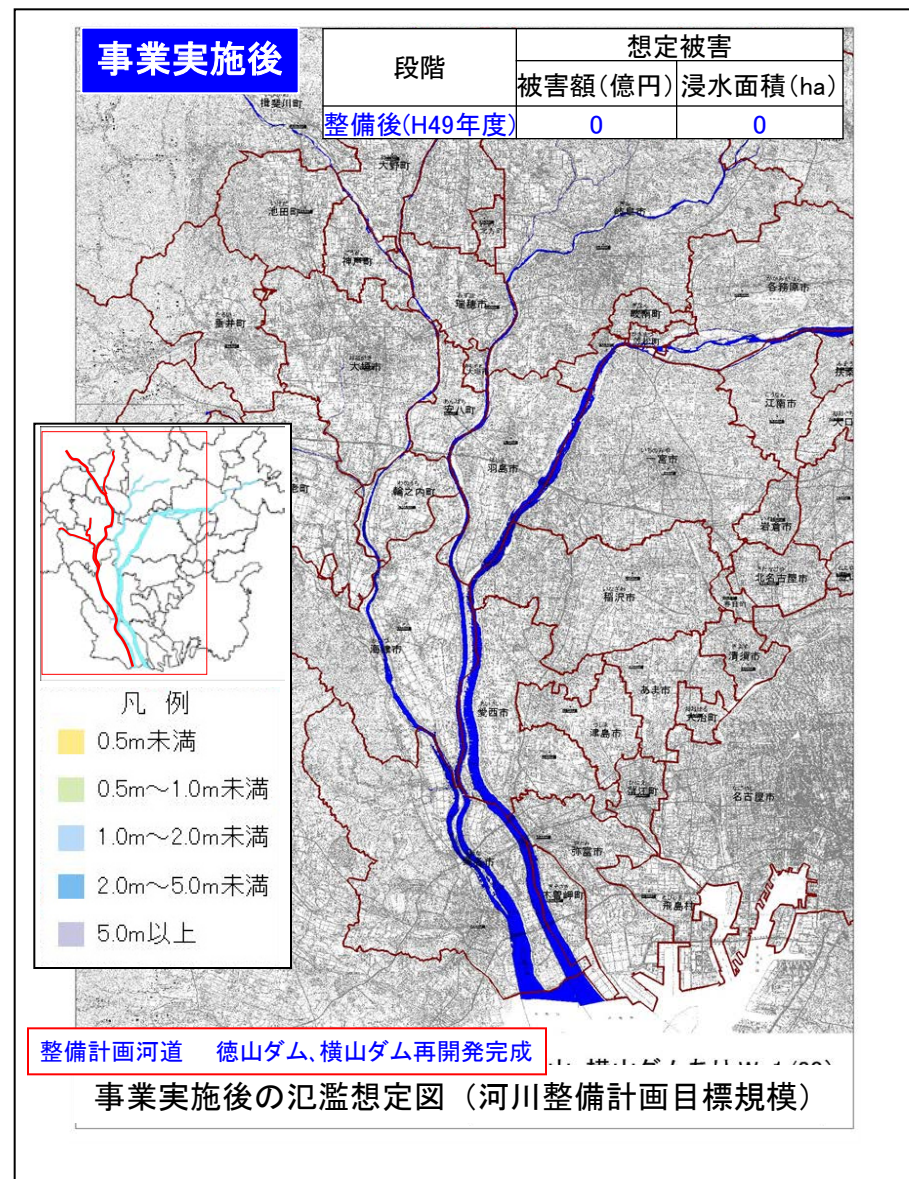
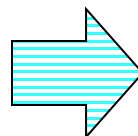
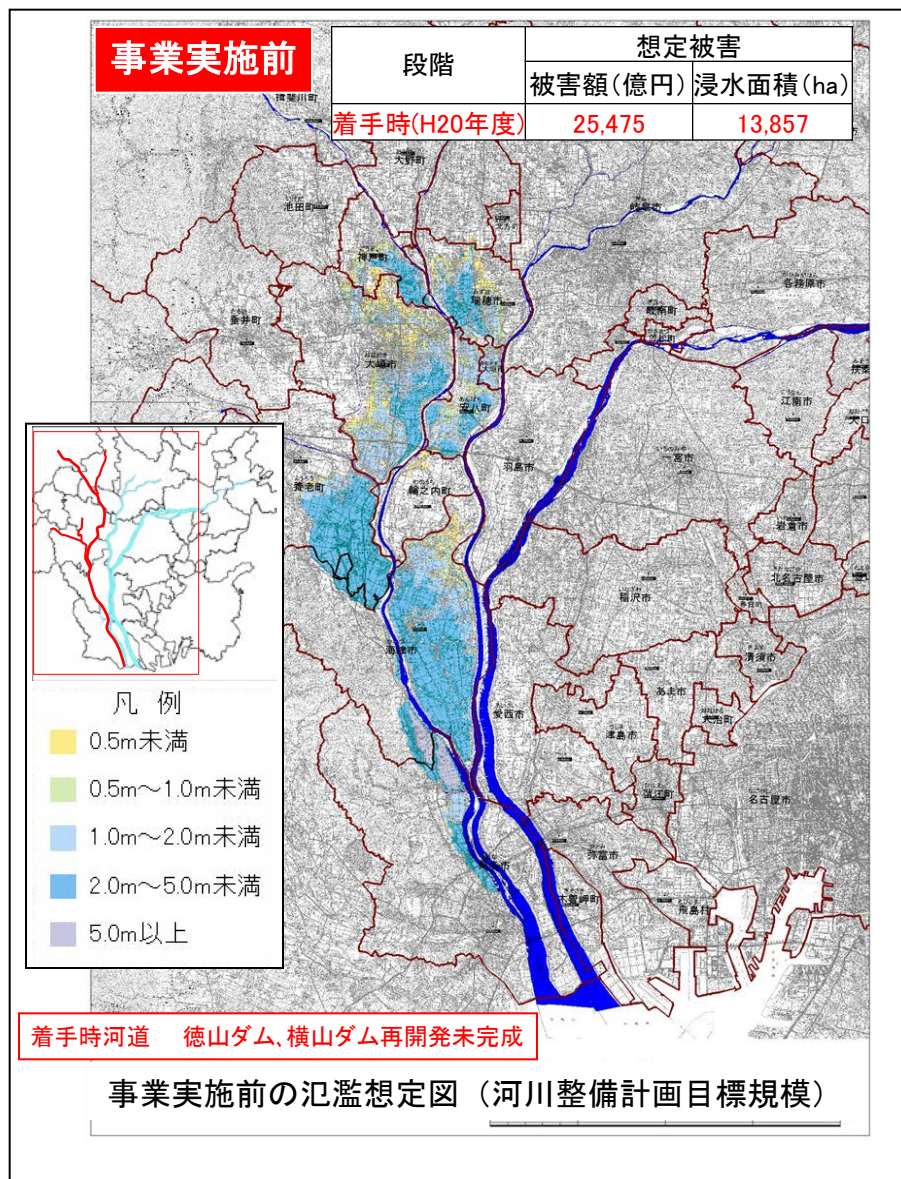
■ 流域の主要交通網



資料：総務省統計局HP-「国勢調査」昭和35、40、45、50、55、60年および平成2、7、12、17、22年調査結果をもとに作成

(2) 事業の投資効果

河川整備計画の目標規模の洪水（平成50年9月洪水，平成14年7月洪水）の発生ことにより想定される氾濫被害は、**浸水面積約13,860ha、浸水人口約16.6万人、浸水家屋数約5.4万世帯**であり、河川改修を実施することで**被害が解消**します。



(3) 事業の進捗状況

揖斐川では、昭和50年8月洪水及び平成14年7月洪水を安全に流下させるため、平成20年9月に浸水被害が発生した牧田川・杭瀬川の改修を集中的に予算を投入して進めており、河川整備計画に計上されている事業の進捗率は事業費ベースで43%程度です。



河川整備計画にて計上された事業の実施状況

整備項目	事業全体	整備済	整備中
堤防整備	67.6km	34.8km	0.56km
高潮堤整備	1.8km	1.4km	0.0km
堤防強化 ※	137.5km	23.2km	4.8km
河川防災ステーション	2カ所	2カ所	0カ所
排水機場増強・新設	6カ所	2カ所	0カ所
河道掘削	1,887千m ³	761千m ³	0千m ³
橋梁改築	3橋梁	0橋梁	0橋梁

※堤防強化には浸透対策、護岸整備、耐震対策を含む

平成27年3月末時点

● 河川防災ステーション



城南地区（揖斐川右岸-0.2k付近）

● 堤防整備



西濃地区（揖斐川右岸17.6k付近）

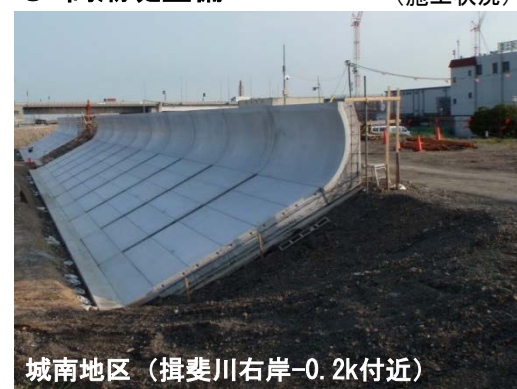
● 堤防整備



静里地区（杭瀬川左岸7.8k付近）

● 高潮堤整備

（施工状況）



城南地区（揖斐川右岸-0.2k付近）

3. 県への意見聴取結果

岐阜県、三重県への意見聴取の結果は、以下のとおりです。

岐阜県

- ・対応方針(原案)のとおり、事業の継続について異存ありません。なお、今後の事業の実施にあたっては、下記内容についてご配慮願います。
- ・河川の改修に当たっては、多自然川づくりを基本とし、自然と共生した川づくりを進めるよう願います。
- ・事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減をお願いします。

三重県

- ・本事業は、木曾川水系の治水上重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、木曾川水系河川整備計画に基づき、事業を推進していただきますようお願いいたします。

※全国地方公共団体コード順

4. 対応方針(原案)

以上のことから、木曾川水系河川整備計画に基づく、揖斐川直轄河川改修事業を継続していきます。